

# 市民協働事業提案制度 相互評価シート

令和6年度実施事業

令和7年2月17日

事業名	3Rにつながる暮らし講座		
団体名	富士友の会	担当課名	廃棄物対策課

## ■ (1) 市民協働の観点から

「目的の共有」「役割分担」「十分な意思の疎通」「対等性」「相乗効果・波及効果」についての成果・課題や、双方の評価点が異なる場合の協議内容など。

事業の企画から実施まで、打合せやリハーサルを合同で行うなど、対等な立場で共に事業をつくりあげることができた。

相乗効果・波及効果については、本事業の実施が市民サービスの向上に直結するものではないものの、協働で事業を行うことで一歩踏み込んだ啓発ができたと評価している。

## ■ (2) 事業内容の観点から

「目的・目標の達成」「事業スケジュール」「費用対効果」「市民満足度」についての成果・課題や、双方の評価点が異なる場合の協議内容など。

本事業の目的は、市民に「3R」を実践してもらい家庭ごみの減量につなげることである。

この目標を双方で共有し、団体による創意工夫のもと、誰にとってもわかりやすい、生活に直結した知恵や工夫を、実践を交えながら紹介することができた。

一方で、「片づけ」というテーマに関する個人の意識は様々で、受講者アンケートで「(講座で紹介した内容を)既に実践している」という自由意見が少なくなく、このような受講者の満足度を高める工夫を盛り込むことが今後の課題である。

## ■ (3) その他、課題やその改善方法など

想定以上に早くから多くの申し込みがあり、会場の地域住民に事業を周知するタイミングがなかった。

今後、すべての地区での実施を視野に事業を推進していくに当たり、会場となる地域住民に優先的に受講してもらえるような工夫が必要である。

このような状況から、「片づけ」というテーマは多くの市民が興味を持っていることがわかったため、もともと意識の高い市民にも満足してもらえるような講座となるよう、内容の見直しを行うこととする。